

ISEP インターン体験記

ISEP に入ったきっかけ

私が ISEP に入ったきっかけは、環境問題の現場で問題解決に携わる NPO がどのような仕事をしているのか知りたいと思ったことと、教室では学べないことを ISEP や学生インターンの方と共に働くことで学ぶことができると思ったからです。私は大学で環境問題について学んでおり、特に気候変動に関心があります。大学では環境問題が起こるメカニズムや、解決に向けた社会の動きなどを学んでいましたが、実際の社会の現場ではどのような取組を行っているのかより深く知りたいという思いで、NPO のインターンシップに関心を持ち、ある方から紹介を受けて ISEP を知りました。ISEP は気候変動政策やエネルギー政策に取り組んでいたことや、海外の方も参加していることが、英語も磨きたかった私にとって魅力に感じ、参加を決めました。



名前：織田 薫

大学：国際基督教大学 教養学部

アーツ・サイエンス学科

環境研究専攻 化学副専攻

4年

インターン期間：

2021年10月～2022年3月

業務内容

様々な活動の中で、主に再生可能エネルギーの規制条例の調査、「パワーシフトマップ」の作成、非化石証書の情報のまとめの業務が印象に残っています。

再生可能エネルギーの規制条例の調査では、新たに制定された再生可能エネルギーの規制条例を新聞などで調べ、分類するというものでした。キーワード検索で調べると、様々な自治体が太陽光発電の設置規制や、ルールを定めていることが分かり、太陽光発電を普及する動きに注目していた私にとって衝撃的でした。景観破壊や自然災害を懸念して自治体が太陽光発電の設置を規制することは、太陽光発電の普及のスピードは弱めるかもしれませんが、自然や地域と調和した太陽光発電の普及に向けた動きでもあり、バランスをとった政策の重要性を実感しました。

「パワーシフトマップ」の作成では、他の学生や、環境 NGO の方と関わる機会があり、とても刺激的でした。再生可能エネルギーを利用している事業者に、マップに掲載する情報を確認するためメールや電話で連絡をとる機会もあり、仕事として初めて社会人と連絡をとったため

緊張もしましたが、とても貴重な経験でした。地道な作業もありましたが、小さな業務の積み重ねが環境問題の解決につながることを実感できたことも、大きな学びでした。

インターンシップを通して学んだこと

私がインターンシップで学んだことは大きく3つあります。一つ目は、リサーチ方法です。ISEPのスタッフの方のリサーチ方法を知ること、大学での卒論執筆や普段の情報収集に活かせることができると思います。新聞や文献を用いた調査を重ね、今後も環境問題などにアンテナを張っていきたいと思っています。

二つ目は、再生可能エネルギーの普及の取組の現場を知ることができたことです。自治体やNPO、NGOの取組に触れ、社会では様々な取組が行われていることを実感しました。教室では政府や企業の代表的な動きなどを学ぶことが多かったですが、草の根や自治体の様々な取組を知る機会があったことは、私の視野を広げることにつながりました。

三つ目は、再生可能エネルギーの普及に向けた課題についてです。今後さらに太陽光発電などの再生可能エネルギーを普及させていくことは重要ですが、自然や人々との調和も考えるべきであることも学びました。今後も関心を持ち続けて、再生可能エネルギーの開発の在り方について考えていきたいと思っています。

インターンシップを考えている人へ

インターンシップに参加することは少しハードルが高いと感じている人も、この文章を読んでくださっている方にはいらっしょだと思います。私自身、インターンシップに参加することは少し難しそうなおイメージもありました。しかし、参加してみると、自分の知らなかった再生可能エネルギーや環境政策の世界に触れることができ、入ってよかったとすぐに思いました。私は、今後も環境問題の解決に向け、さらに学び、取り組み続けるつもりです。ISEPで出会った方々から得た刺激も糧に努力していきたいと思っています。

皆さんもぜひ、インターンシップに参加して、自身の視野を広げ、様々なことを学んでいただけたらと思います。最後まで読んでいただきありがとうございました。